

# 私のいきいきボランティア体験記

今回のボランティア体験記では、(社)経済団体連合会と(社)日本青年奉仕協会の共催で行われた「VOLUNTEER体験'93 触れて動いてボランティア」に参加した和久典子さん(本社労務部)と編集部の方の体験記をご紹介します。



## 社会福祉法人 鶴風会 後援会 ニュース

No.32 (平成六年)  
社会福祉法人 鶴風会  
後援会  
東京都武蔵村山市学園4-10-1  
☎0425-61-2521  
事務所・東京都中野区  
本町2-15-13 ☎03-3372-7650

昨年八月に着工致しました建て替え工事は、お陰様で第一期工事は終了致しまして、その建物に一時入院中の子供達は移りました。九月から全面建て替え工事が本格的に始まります。まだまだ遠い道のりでございます。何卒一層の御支援の程お願い申し上げます。今号は当施設に「ボランティア」に来て下さったOLの方の体験記をおのせ致しました。

### 別れが つらかった ボランティア体験

目をつぶっての歩行…  
わずかですが、障害者の方々の苦勞を肌で体験したような気がしました。

「触れて動いてボランティア」…各企業から約50人が参加して2日間行われた体験ボランティアは、強烈な印象と感動を与えてくれた経団連主催ということもあり、大手商社、大手自動車メーカー、大手コンピューター・電機メーカーなど各企業からの参加。そしてその大半がボランティアは初めてという。

まず初日は、精神薄弱の人たちの更生施設である『日の出太陽の家』

で基礎研修が行われた。まず最初は、自分たちが障害者の皆さんの苦勞を知ることだった。『車椅子体験』…『視覚障害者・盲導犬の日常』…『視覚障害者・盲導犬の日常体験を聞く』…この中で視覚障害者のガイドヘルプとは2人ペアになり、1人が実際に目をつぶり、1人が坂道や階段をガイドしながら、歩くというもの。

よく街で、目の不自由な人たちの肩を後から押してあげるような格好で誘導している人を見かけるが(以前の私もそうだったが…)、誘導されている人にとっては、自分が前面に出してしまうので結構不

安だという。正しくは、誘導する側の人が前に立ち、自分のひじに目の不自由な人の手をそえさせるような格好で誘導する。さうには、障害物、車、階段などが進路にある時には、必ず「前に障害物がありますから、3時の方向に一步横にずれてください」というように誘導してあげるのが良い、ということだった。

実際に私も目隠しをして誘導してもらいながら、階段やスロープなどがある道を下ってみた。目を開けている時は、何の苦もなく歩けるはずの道なのだが、何も見えないと非常に不安だ。ほんの数cmの階段を下るのに、数mの急な山道を下るような感覚に襲われてしまう。「これから階段です。一歩前に進んでそつと足を下ろしてください」と言われなければ、一歩も前に進めないような気分になってしまう。誘導の大切さを知るとともに、「目が見える有り難さ」に普段全く気がついていないことを実感した。

いよいよボランティア活動先へ  
東京小児病院と、  
みどり愛育園に向う

さて、翌日は、いよいよ各施設に分かれてボランティア活動を体験する。私と和久さんが選んだ体験先は、「鶴風会 東京小児療育



ボランティアを終えた後の良い顔 (前列右から2人目が和久さん)

病院・みどり愛育園」という肢体不自由児や重症の心身障害者・児の施設だ。私たちを含めて体験ボランティアは九人。その中七人が障害者の方との初めてのボランティア活動を体験する。

東京小児療育病院とは、脳性まひ児の早期療育のための医療施設で、あらゆる心身障害児を対象に幼少児期からの総合的な療育を行っている。案内して下さった先生の話では「日本一重症で、しかも小さい年齢の子供を療育しています」とのこと。

みどり愛育園とは、在宅療育が困難な重度の障害者・児を対象に機能訓練と生活指導を行う入所施設だ。実際に私達が案内されて園内を回って見て、肢体不自由施設というから 子供ばかりが入院

していると思ったが、私達と同年齢の人たちが多勢入院されていて少々驚いた。

コミュニケーションの手段は、言葉だけではない

「笑顔」も立派なコミュニケーション

さて簡単なオリエンテーションの後には院内見学。脳性まひで身体障害があり、重ねて知能障害の程度が重い人たちは「介護ができない」という理由から20年前までは、どの施設でも受け入れてくれなかった。そうしてできたのがこの施設とのこと。このような重度の障害を持つ人たちに身近に接するのは、私もほかの八人もはじめて。皆、顔がこわばり言葉もでなかった。しかし皆の緊張を解くような出来事があった。車椅子に乗った20歳後半くらいの重度障害者の人が、一生懸命私たちに向かって『こんにちは』と言ってくれているのだ。

案内して下さった先生が『頭の中では健康者と同じように感じ、考えているのですが、身体の全部に伝える機能が完全でないためにうまく話す事ができない。うまく動くことができない。コミュニケーションが上手にできないだけなのです。』とオリエンテーションの中で説明して下さいました。うまくしゃべれなくても十分だった。私達とそれの人たちとは、たった一言の『こんにちは』で通じたよ

地下にある洗濯室兼乾燥室で「おむつ」をきれいにたたむ作業をさせて頂いた。「おむつ」はしわがよっているので障害者の人達が痛がる。そこできれいにしわをのばす。私達九人が「おむつ」の山に取り掛かるが、30分前後でたたむことができた数はほんの僅か。しかし「おむつ」は毎日取り替えるものだからここでもボランティアの人の手助けが是非とも必要という。さて、いよいよ九人が三班に分かれて各病棟に入ってボランティア活動を行うことになった。私と和久さんの行先は東京小児療育病院の『東病棟』重度の心身障害を持つているため、首がすわらず、動くことも話すこともできず、さらに気管に障害があり人工鼻で呼吸をしている子供が入院している病棟である。病棟に着くと看護の先生が『〇ちゃん、ボランティアのお姉さんにオヤツを食べさせてもらいましょうね』と言われ、和久さんは中学生くらいの男の子、私は八才くらいの女の子、もう一人の方は二、三才の男の子にオヤツを食べさせることになった。しかしこの子たちは自分で口を開けてはくれない。『お

いしいオヤツを食べようね』と言っても反応してくれない。そこでスプーンで口を開け、プリン状のオヤツを流し込むのだ。この子たちは水を飲むと、食道ではなく気管の中に入ってしまうおそれがあり、しかも自分では咳を出す力が弱いため流動状のオヤツを食べる事で水分を補給しているらしい。



「ふる上りに水分を補給する」(みどり愛育園)

冷汗を流しながらオヤツを終わると散歩に行くことになった。この子たちは動けないため、散歩といってもまず車椅子に乗せることから始まる。車椅子に乗せる時無理な姿勢で介助するため、腰を痛める人が非常に多いそうだ。車椅子に乗せても自分では車椅子を動かすことはできない。このため一人の障害者に一人の介助者が必要だという。『ここに入院している障害者の人達は、みんな外に出たい。たとえば球場に行つてプロ野球を見たいのです。しかし外出するためには必ず車椅子を押す介助者が必要です。病院には障害者全員を車椅子で介助するだけの人手はないので、是非ともボランティアの人達の力が必要なのです』と案内の先生が言っていた。車椅子の子供たちと、付き添いの看護の先生、私達ボランティアは近くの公園で輪になってゲームをして遊んだ。先生が歌いながら『〇〇くん』と呼びかけると子供たちが笑いながら一生懸命手をあげようとする。やはり外へ出るのが嬉しいのだろう。みんな楽しそうだ。散歩が終り病棟に帰ると早速『おむつ替え』だ。看護の先生が手早く『おむつ』を替えていく。私達ボランティアは悪戦苦闘しながらやっと替え終ると、今度は子供たちを抱きながら『お話し』をする。私達に抱かれた子供達はみんな楽しそうでニコニコしている。この時、私達ボランティアはこの子供たちが『障害を持った』子供たちであることを忘れていた。一人の子供と、その子と遊ぶ一人の大人だった。

「この感動を言い表す言葉が見つかりません…」

看護の先生から『もう(ボランティアが帰る)時間ですよね』と

言われ、我に帰った私達の気持ちは一言で言えば『帰りたくない。もっとここで、この子たちの世話をしたい』であった。

私達が先生方に挨拶をして帰ろうとした瞬間、散歩では可愛い笑顔で笑っていた男の子が、私達が帰るのを見て泣き始めた。帰ろうとするボランティアの人達の目も潤んできた。たった三時間の病棟での体験だったが、別れるのがこんなにつらくなるとは予想もしていなかった。子供たちの笑顔(全く感情を表すことが出来ない子供もいるのだが…)。看護の先生たちの苦労と献身、病室の中にあふれている『愛情』……

ボランティア活動が終って一人ずつ感想を聞かれ、女性達は『この感動を言い表す言葉が見つかりません』と言って涙を流した。そして、全員異口同音に『必ずまた手伝いに来ます』と言った。ボランティア活動を行った人は必ず『何か』を得るというが、私達が得たものは『感動』と言葉のコミュニケーションよりもっと大切な『心』のコミュニケーションであった。(追記、この日の九人が、12月中旬、再度『東京小児療育病院』と『みどり愛育園』を訪れ、今度は体験ではなく、本物のボランティアに挑戦したことは言うまでもない)

7月20日 帝国ホテルにおいて  
納涼ハワイアンディナーショー コロニスの会

出演の田喜先生ご一行は、後日東京小児療育病院まで  
ボランティアとして来て下さり、子供達にハワイアンを  
見せて下さいました。



♡ チャリティ・バザールへのお願い ♡

日時 平成6年11月13日(日)

場所 東京小児療育病院通園棟多目的ホール及び院庭

昨年のチャリティ・バザールには、多くの方々や協賛会社の御支援によりまして、  
600万円余の純益をあげる事ができ、誠に有難く、施設の全面改築の資金の一部として  
役立たせて戴きます。厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願い致します。

食料品、調味料、酒類、石鹸、洗剤、陶、漆品、文房具、書籍、衣料品(新品又は新  
品に近いもの)など御寄贈をお願い申し上げます。

○御寄贈品は既に受付ております。

○御品物は恐縮ですが10月末日までにお送り下さいませ。

○連絡先 病院 武蔵村山市学園4-10-1 ☎0425(61)2521

後援会 東京都中野区本町2-15-13 ☎03(3372)7650

☆御寄附振込方法☆

後援会ニュースと合わせて  
郵便局の振込用紙のみを同封  
致しておりますが、銀行の方  
が御便利の方は下記へお願い  
致します。

○三菱銀行中野支店

(店番151)

○普通預金

○口座番号 4107235

○口座名

社会福祉法人鶴風会後援会

♣ 第6回チャリティ・パーティ コロニスの会への御誘い ♣

第5回コロニスの会は、昨秋、帝国ホテルに600余名の皆様がお集まり下さり、盛会裡に400万円の純益をあげる事が  
できました。一重に、ご協賛下さいました企業、御参集の皆様のお厚情の賜物一同感謝致しております。益金は施設の建替  
資金として大切に役立たせていただきます。本年はペギー葉山さんを迎え、楽しい一夜をと企画しております。年末のお忙し  
い時期ではございますが、お誘い合わせのうえ御参加下さいます様、お願い申し上げます。

日時 平成6年12月15日(木)

場所 帝国ホテル(孔雀の間)夕刻より

予定人員 600名

連絡先 東京都中野区本町2-15-13 ☎03(3372)7650

鶴風会後援会 コロニスの会

鶴風会後援会(寄付者)芳名

平成六年二月〜七月  
延五三八名(敬称略)

- 金丸 米子・金森 勝士・金子クニ子  
金親 正敏・兼松 晴彦・蕪木 英  
釜池 登志・龜谷 了・河合 俊子  
河合 典子・川上 武子・川北まりえ  
河津 緑・河野 喜一・川野 報子  
川原 裕一・神田 敬子・神田 明  
木内 徹子・岸 芳正・岸 直枝  
北川 フサ・木村甲子郎・金龜 糸業  
工藤 敬子・久保 修一・久保 初美  
熊谷 香子・熊谷 健伸・熊谷 良子  
熊野三和子・倉根 理一・黒田 節子  
黒田 純子・月花 亮・小出 誠  
神津 康雄・神津 弘・河野 静代  
古賀 和子・小駒 富男・小島 栄吉  
小島 国利・小竹原安見・小竹原良雄  
小林 義郎・小林ひろみ・小松 正夫  
駒林とめ子・小森 まさ・小屋 二六  
紺谷久仁枝・近藤 澄子・近藤トシ子  
今野 信子・後藤すみ子  
今野 達子・齊藤イサオ・齊藤 富美  
齊藤みどり・齊藤 賤花・齊藤 哲男  
齊藤 則善・齊藤 英子・佐伯日出貴  
酒井 裕子・酒井 孝夫・坂井タマノ  
堺 敏秀・坂田 フミ・先山 隆司  
佐倉 博・佐々木胤郎・佐々木徹郎  
指田 和明・佐藤 香・佐藤 重雄  
佐藤 つや・佐藤 幸子・佐藤 中  
佐藤 真理・佐藤 俊男・澤田 園子  
志野 則次・塩野 久子・獅山富美子  
志鳥真理子・篠崎 松江・柴田美代子  
柴山 精一・洪川 朝子・洪谷 昌良  
島 和・嶋崎紀代子・島崎 智子  
嶋田 寛子・清水五百子・霜鳥 トミ  
正田二寿子・庄子サチコ・白井 貞子  
白浜 光子・城 妙子・新藤 健  
上野 フジ・菅野 訓子・末吉 実子  
須貝千世子・須貝 智恵・杉田 佳信  
杉本 とし・鈴木 陽一・鈴木 秀明  
鈴木 保寿・鈴木 誠・鈴木かつえ  
鈴木 誠一・鈴木 稔・鈴木はま子  
鈴木 光子・須藤 操・砂入 美穂  
成毛 典子・関 静・関本 久栄  
瀬戸 富子・宗 恒雄・側垣 恵子  
外山 チエ・高垣 益子・高木 啓吾  
高桑 幹雄・高月 誠・高月 正宏  
高橋 龍子・高橋 尚子・高橋百合子  
高橋知愛子・高久キノ子・多賀三千代  
武居 節子・武居 正郎・竹内 神奈  
竹沢 修一・高尾 淑子・竹下 寿子  
竹下 文雄・武田 イセ・竹村 慶子  
多田 久人・立原 芳子・巽 弘子  
多田 正子・田鍋 庸子・谷 絹子  
多比良 勉・田宮 親・田宮 二郎  
千亀 学・千島チエ子・沈 在俊  
津金 修作・塚本 佳子・月本 一郎  
月本 伸子・塚植 房江・土屋 達吉  
壺坂比路里・鶴岡 康子・手塚まち子  
出溝 熙・遠山 美知・戸金 隆三  
鶴岡 みつ・徳重 隆幸・戸澤 修平  
豊島 久子・飛谷 良子・富岡 俊也  
富岡 瑞子・友田伊佐子・富山佐起子  
鳥居三三子・田中 明美  
東邦会宮城県支部  
東邦大学佐倉病院外科教室  
直井喜美子・中川 雅明・中川 甲子  
中神 雅枝・中倉千鶴子・中澤 弥生  
中野 謙二・中西 隆・中根 幸枝  
中野 重徳・中野 弘一・中野 敏江  
中平 貴子・中村 光彦・中村 克彦  
中村志津子・中村 幸子・中村きよ枝  
中村 一男・中村 絢子・中村 健一  
中山 寿子・中山 年子・中谷 尚登  
中山 公・中山みよ子・永井 龍行  
長岡 貞雄・永澤 康滋・永澤 康博  
永島美江子・永田 保子・長野 文子  
新川 涼子・並木 温  
西川 芳子・西新井病院・西岡 将  
西宮 秀人・西崎 照子・西田 隆寛  
西宮 常代・西平 守夫・西村たま子  
西村トシ子・西本 麗子・額田 久子  
布村 精一・根本 哲生・根本 優子  
野ヶ山慶子・野口 道子・能登路民子  
野中 杏栄・野村真世子・野村 和子  
野村 正征・野村 直子  
萩沢 雅子・萩原 マチ・端田 泰三  
橋本静子・蜂須賀富美子・蜂谷イソ子  
蜂矢由美子・蜂矢 朗彦・服部 睦子  
羽根田道代・浜田未知子・浜田 マサ  
早川 芳江・早川 功・早川 好古  
早川 浩市・林 敬一郎・早原 千鶴  
原 多恵・原 理・原 まどか  
原田 孝・原田裕美子・原田千鶴子  
半田登喜代・坂堂美都子・秦 和子  
樋川 歌・檜垣 有徳・東出 祥子  
樋口 正俊・久武 明子・日野チヨコ  
日比野富貴・平井 薫・平岩扶美子  
平井 寛則・平沢 幸子・平嶋 信子  
平田 徹・広岡 鈴子・弘瀬 律子  
廣田 悦造・府川 則子・福井恵美子  
福田 栄子・福田貯金箱・福永 光子  
藤田 澄子・藤井 隆子・藤田 親代  
藤田よし江・藤野 隆子・古野 寿子  
古橋登美江・保科 光平・星野 和子  
星野 志ゲ・細谷 律子・発地瑠璃子  
発地 美介・堀 敏子・堀 友之進  
本田美代子・本間れい子  
真下 静枝・升谷 靖子・(株)俣 野  
松井寿美子・松浦みわ子・松岡 昌子  
松岡 玉枝・松岡 栄子・松下 美代  
松野 裕子・松野マサエ・松原 貞一  
松丸ちづる・松村 あや・松本 知子  
三浦 家昌・黛 節子・丸山 和子  
三浦 真一・三浦 治子・三木 英子  
三澤 千代・見須 華・水野 正子  
溝部ゆり子・三塚浩四郎・三戸 緑  
三登 和代・宮川美智子・宮川千鶴子  
三宅 三・宮崎 元伸・宮前智恵子  
向山 英樹・向山 和代・村上 通  
村川世津子・村上実千代・村上久仁子  
村田 達江・本橋 猛・百瀬 喜一  
森 千恵子・森 絃子・森 喜一  
森 清子・森 克彦・盛川 洋一  
盛川 温子・森川 幸江・森木 光司  
森田 和子・森田 功・守屋 孝子  
諸岡 芳野・諸富 杏子・矢島 定子  
矢島 正・安土 達夫・康野佳世子  
矢高レイ子・柳谷 紀子・柳沢 博子  
柳澤 信子・矢野 春雄・山住美津子  
山川 昌一・山縣 頼子・山口 銀子  
山口 美幸・山崎 昌子・山崎 義郎  
山崎 倫子・山崎 郁子・山下 香澄  
山田 規子・山田 阜月・山田 純子  
山田 今子・山田三枝子・山田 和江  
山出 孝子・山中 積・山ノ井きよみ  
山本 勇・山本和賀子・山本 節子  
湯川 玲子・由布 水城・横手 方子  
横山 隆子・横山ちとせ・吉澤 熙  
吉田 栄子・吉見 梓・米沢 マチ  
米山 杏子・菜満 礼子・若月 澄子  
渡辺古都江・渡辺真帆美・渡辺 静子  
渡部 松生・和田 俊洋・和田 邦孝

社会福祉法人 鶴風会  
東京小児療育病院  
みどり愛育園  
に御寄付をいただきました  
個人・企業・諸団体の  
皆様へ

日頃は一方ならぬ御厚情  
・御支援を賜わりましてあ  
りがとうございます。厚く  
御礼申し上げます。

誠に勝手でございますが、  
今号にお載せできなかった  
御寄付者御芳名は次号に掲  
載させていただきますので  
御了承下さいませ。

今後ともよろしくお願  
い申し上げます。

※ 今号は鶴風会後援会に  
御寄付をいただきました  
方々の御芳名のみ掲載いた  
しました。

